2022年度 新入社員意識調査の結果から

地域開発調査部 主任研究員
丸澤 千春

Z世代を象徴する「2000年生まれ」の若者が社会に巣立つ時代を迎えた。コロナ下での就職活動を終え、内外の情勢が不安定な中で新たな職業人としての一歩を踏み出した今年の北陸の新入社員たち。
北陸経済研究所では、この春に北陸３県の企業に就職した新入社員に対し、自身の就職活動の実態や職業観などについてアンケート調査を実施した。
本稿では調査の結果から、「リアルZ世代の新社会人」の横顔を一部紹介する。

※調査結果の詳細は、下記URLから別途レポートをご覧ください。
https://www.hokukei.or.jp/app/website/wp-content/uploads/2022-new-employee_report.pdf

※詳細はこちらから

■調査の概要

●調査目的
北陸３県の企業へ入社した新入社員の就職活動実態、職業感などを把握する
●調査対象
2022年度新入社員
※富山、石川、福井に本社をもつ企業に春季入社した新入社員に限定
●調査方法
ウェブアンケート方式
※以下のセミナー受講者を対象に回答用ウェブサイトのURLを示して誘導
①北陸経済研究所主催の新入社員研修受講者
②北陸銀行主催の新入社員オンライン公開セミナー視聴者
③北陸経済研究所賛助会員企業の人事採用担当者経由で、各社の新入社員に回答を依頼
●調査期間　2022年４月１日～15日
●有効回答者数　213 名

■回答者（n=213名）のプロフィール

●性別
男性：53.5%　女性：45.1%　回答しない：1.4%
●出身県
富山：40.4%　石川：28.6%　福井：16.4%
その他：14.1%（外国１人含む）、無回答：0.5%
●最終学歴
大学・大学院：52.1%　短大・高専・専門学校：22.5%
高校：24.9%　その他：0.5%
●最終学歴校の所在都道府県
富山：28.2%　石川：31.5%　福井：11.7%
その他：26.3%　無回答：2.3%
●就職先本社所在地
富山：51.2%　石川：30.5%　福井：18.3%
●勤務地
富山：46.9%　石川：30.5%　福井：15.0%
その他：1.9%　不明・無回答：5.6%

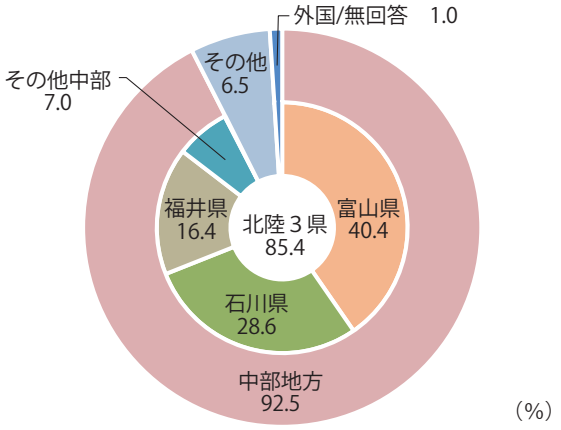
１．今年の北陸の新入社員たち

出身地と出身校の所在地　～大半が地元採用

回答を寄せた213人の出身地をみると、北陸３県の出身者が大半で85.4％と最も多かった。他県出身者をみても長野県や新潟県など近県出身者がほとんどで、これらの地域を含む中部地方出身者だけで92.5％を占めており、北陸の企業の採用の多くが地元・近県採用が主であることが裏付けられた。

一方で、地域外の出身者では首都圏出身の５名のほか、北海道から九州沖縄にかけて少数ずつではあるものの、広く全国から北陸の企業に就職する動きが確認できた。

回答者の出身県（n=213）



最終学歴は全体の半数（52.1％）が大学・大学院卒であり、短大・高専・専門学校卒が22.5％、高卒が24.9％という構成である。このうち大学・大学院卒については、該当する111名のうち北陸３県内の大

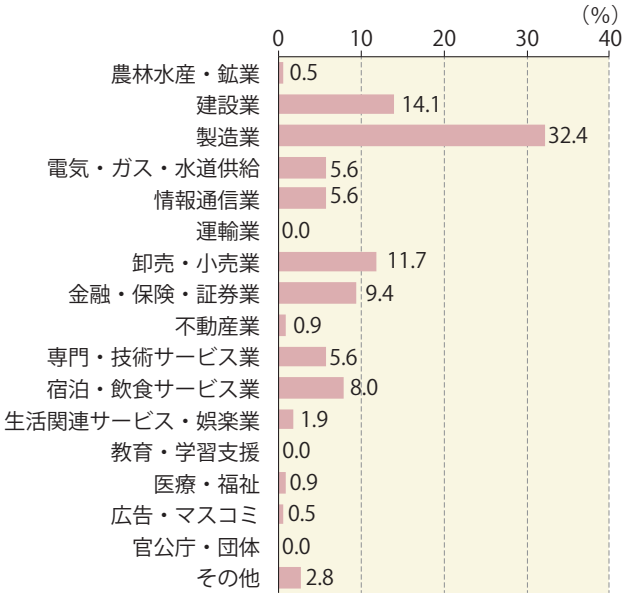
学の卒業生は61名（55.0％）で、その他近県の大学出身者16名を合わせると77名（69.4％）が中部地方の大学出身者となっている。

なお、首都圏の大学出身者は12名（10.8％）、近畿圏は13名（11.7％）とほぼ拮抗しているが、首都圏12名のうち７名が、近畿圏13名のうち10名が地元へのＵターン就職組である。

業種と志望　～３人に１人が製造業

就職先の業種をみると３人に１人（32.4％）が地域の主要産業である製造業へ就職している。一方、非製造業では建設業（14.1％）、卸売･小売業（11.7％）、金融・保険・証券業（9.4％）などが上位である。

就職先の業種（n=213）



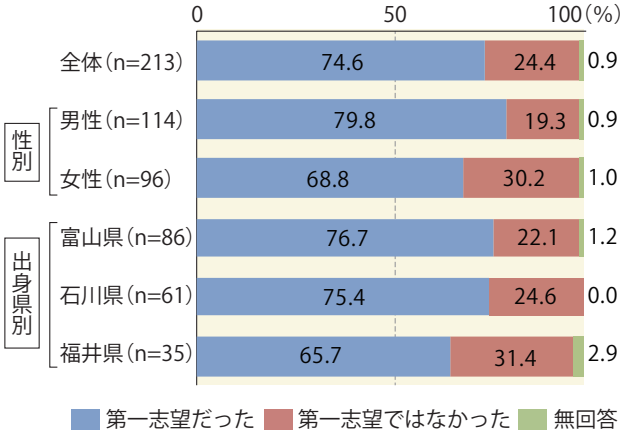
本社所在地別にみると、富山県の製造業への就職比率は37.6％と、石川県や福井県を大きく上回っていることが見てとれる。また、富山県は金融系が２位、石川県は建設業が２位、宿泊・飲食サービスが３位、福井県では情報通信業が２位に入るなど、上位の顔触れは地域の主要産業を反映したものに変わる。

就職先の上位業種（本社所在地別）

	富山県（n=109）	石川県（n=65）	福井県（n=39）
1位	**製造業：37.6%**	製造業：26.2%	製造業：28.2%
2位	金融系：15.6%	**建設業：21.5%**	**情報通信業：25.6%**
3位	建設業：12.8%	**宿泊・飲食サービス：20.0%**	電気･ガス･水道：10.3%

一方、「就職先の業種が第一志望だったか」との問いに対しては、全体では４人中３人（74.6％）が「第一志望だった」と回答しており、大半が志望に沿った業種への就職を叶えたようだが、性別では男性（79.8％）より女性（68.8％）の方が、出身県別では、富山県の76.7％や石川県の75.4％に比べ福井県出身者が65.7％と、それぞれ10ポイント程度「第一志望」の比率が低いなど差がみられた。

業種の第一志望率

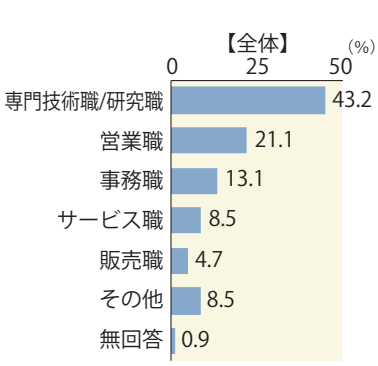


職種と志望　～４割が専門技術職

職種についてみると、専門技術職/研究職（以下、「技術職」）の43.2％を筆頭に、営業職（21.1％）、事務職（13.1％）が上位で続いている。男女とも技術職の割合が最も多く、男性57.9％、女性27.1％。男性は技術職に次いで営業職が28.1％と多く、この２職種に86.0％が集中している。

他方で女性は事務職で22.9％（男性3.5％）、サービス職で15.6％（男性2.6％）、販売職で10.4％（男性０％）と分散しており、それぞれ男性を大きく上回る。本社所在地別にみると、石川県でサービス職比率が18.5％と、技術職に次ぐ多さとなっている点が目立つ。

就職先の職種（n=213）



（性別）

	男性（n=114）	女性（n=96）
専門技術職/研究職	57.9	27.1
営業職	28.1	13.5
事務職	3.5	22.9
サービス職	2.6	15.6
販売職	0.0	10.4
その他	7.0	9.4
無回答	0.9	1.0

(%)

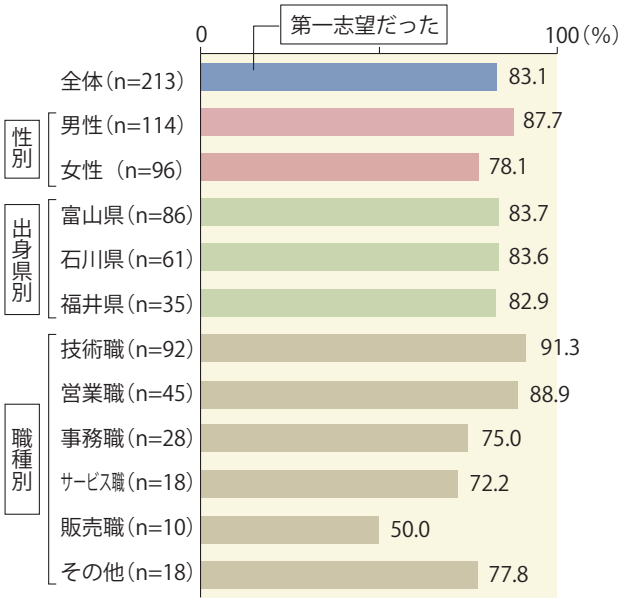
職種上位（本社所在地別）

	富山県（n=109）	石川県（n=65）	福井県（n=39）
1位	技術職：43.1%	技術職：36.9%	**技術職：53.8%**
2位	営業職：24.8%	**サービス職：18.5%**	営業職：23.1%
3位	事務職：12.8%	事務職：15.4%	事務職：10.3%

業種と同様に「就いた職種が第一志望だったか」との問いに対しては、全体では83.1％が「第一志望」であり、女性（78.1％）より男性（87.7％）の方が高かった。

出身県による差はあまり見られないが、職種別に第一志望比率をみると、技術職の91.3％を筆頭に営業職（88.9％）や事務職（75.0％）で高く、逆に販売職では50.0％とかなり低い。

職種の第一志望率



2．就職活動を振り返って

次に、回答を寄せた新入社員の就職活動について、その一端を見てみよう。

他県での就職活動　～３人に１人が他県でも就活

まずは、他県で就職活動をしたかどうかについて尋ねたところ、全体の３人に１人（32.4％）が「活動した」と回答した。

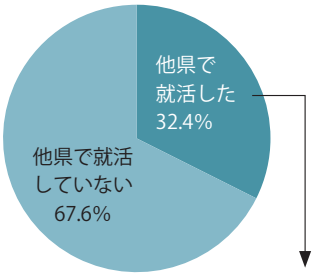
性別では、男性（28.9％）に比べ女性（36.5％）の割合がかなり多くなっており、この地域での女性の県外転出率の高さを物語る。

出身県別では、富山県の26.7％や石川県の14.8％に比べ福井県出身者では40.0％と、極めて大きな差がみられた。

「他県で就活した」回答者に対し、どの地域で就職活動したのかを複数回答で尋ねたところ、「北陸３県の他県」の46.4％を筆頭に「首都圏」39.1％、「近畿圏」27.5％、「中京圏」23.2％と、多くが三大都市圏にもエリアを広げていることが分かる。

なお、この就活エリアは男女別にみると大きな差が見られ、「北陸３県の他県」が男性で39.4％なのに対し女性は51.4％であること。さらに三大都市圏での女性の活動率をみると、首都圏42.9％（男性36.4％）、近畿圏34.3％（同21.2％）、中京圏17.1％（同30.3％）と、地元近県を主要ターゲットに、東京・大阪など男性よりも活発に広域を就活エリアとしていることが読み取れる。

他県での就活状況（n=213）

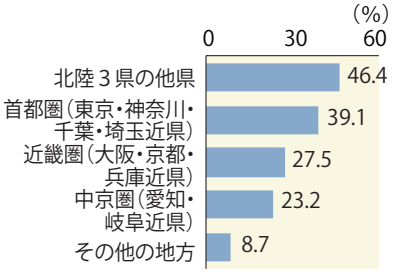


他県で就活した割合（性別／出身地別）

男性（n=114）	28.9
女性（n=96）	36.5
富山県（n=86）	26.7
石川県（n=61）	14.8
福井県（n=35）	40.0

（%）

就活エリア（n=69）



（性別）

男性（n=33）	女性（n=35）
39.4	51.4
36.4	42.9
21.2	34.3
30.3	17.1
6.1	11.4

（%）

志望理由　～「希望の職種だった」が約半数

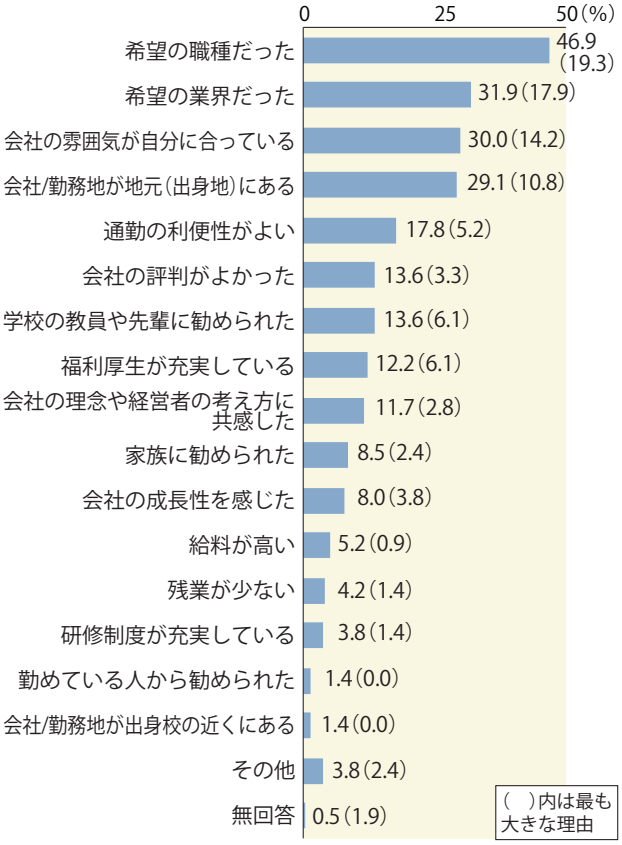
就職先の企業を選んだ理由を複数回答で尋ねたところ、「希望の職種だった」の46.9％を筆頭に、「希望の業界だった」（31.9％）、「会社の雰囲気が自分に合っている」（30.0％）、「会社/勤務地が地元（出身地）にある」（29.1％）などが上位に続く。

また、同じ選択肢から「最も大きな理由」を１つ選んでもらった結果をみても、「希望の職種だった」が19.3％とトップであった。

これを性別でみると、男性は女性より「希望の業界だった」「通勤の利便性」を、逆に女性は「会社/勤務地が地元にある」「福利厚生が充実」「教員や先輩の勧め」などを強い理由として挙げている。

一方、出身県別にみると、富山県出身者は「地元志向」が強いことや「教員や先輩の勧め」「福利厚生」などを重視。石川県出身者は「職種」や「会社の雰囲気」や「評判」を重視する反面、「地元志向」は低いこと。福井県出身者は「業種」や「職種」のほか「通勤利便性」を重視する反面、「会社の雰囲気や評判」はあまり重視しないなど、同じ北陸３県でもかなりの差が見られる点は興味深い。

就職先の志望理由（n=213）



性別・出身県別　※上位項目のみ

	回答者数	希望の職種だった	希望の業界だった	会社の雰囲気が自分に合っている	会社／勤務地が地元にある	通勤の利便性がよい	会社の評判がよかった	学校の教員や先輩に勧められた	福利厚生が充実している	会社の理念や経営者の考え方に共感
全体	213	46.9	31.9	30.0	29.1	17.8	13.6	13.6	12.2	11.7
男性	114	47.4	35.1	29.8	24.6	20.2	14.0	10.5	7.9	9.6
女性	96	44.8	28.1	31.3	35.4	14.6	12.5	17.7	16.7	14.6
富山県	86	38.4	34.9	29.1	37.2	15.1	12.8	16.3	15.1	5.8
石川県	61	55.7	18.0	34.4	29.5	21.3	23.0	13.1	14.8	14.8
福井県	35	48.6	37.1	20.0	34.3	25.7	5.7	8.6	5.7	17.1

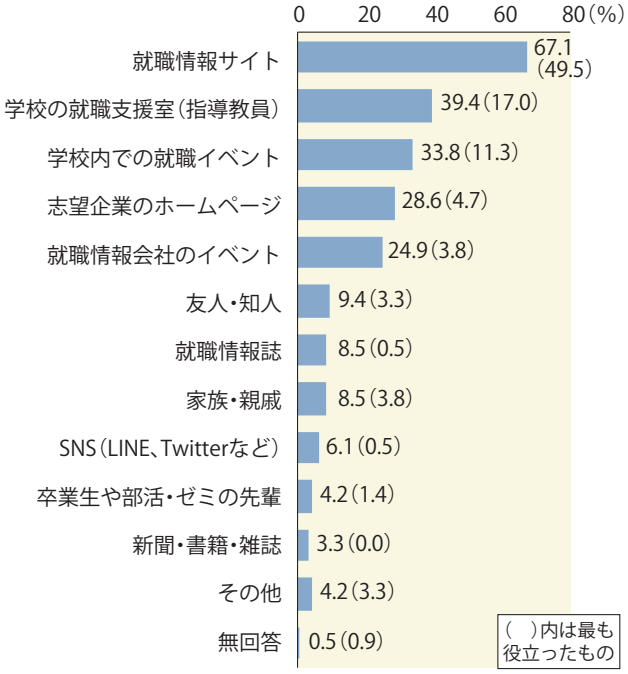
（%）

就活情報源　～欠かせない「就職情報サイト」

就職活動に関する情報源について尋ねたところ、「就職情報サイト」の67.1％を筆頭に、「学校の就職支援室」（39.4％）、「学校内での就職イベント」（33.8％）、「志望企業のホームページ」（28.6％）、「就職情報会社のイベント」（24.9％）の５つの情報源が上位を占めた。

同じ選択肢から「最も役に立った情報源はどれか」について１つ選んでもらった結果をみても、上位には同じ情報源が並び、「就職情報サイト」が49.5％で圧倒的にトップだった。

就活情報源（n=213）



図には示していないが、ほとんどの情報源で男性より女性のスコアが高く、特に「就職情報サイト」では男性59.6％に対し女性75.0％、「就職情報会社のイベント」では男性14.9％に対し女性35.4％と差が大きく、女性の各種情報源への感応度の高さが際立つ結果であった。

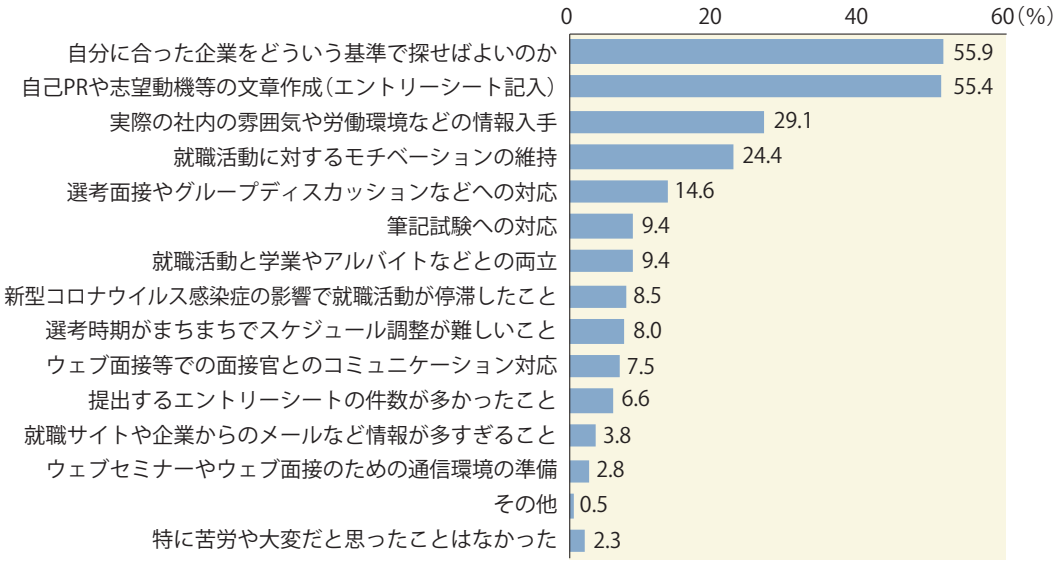
また出身県別にみると、富山県出身者は「就職情報サイト」（70.9％）のほか「学校内での就職イベント」（44.2％）、「志望企業のホームページ」（36.0％）が上位に。石川県出身者は「就職情報サイト」が57.4％と他県より低い反面、「学校の就職支援室」が47.5％と際立って高い。また福井県は「就職情報サイト」が74.3％と突出して高くなっているなど、出身県により大きな差がみられる。

就活での苦労　～企業の選択基準や文書作成に苦労

就職活動を進めるうえで苦労した点について尋ねたところ、「自分に合った企業をどういう基準で探せばよいのか」（55.9％）、「自己PRや志望動機等の文章作成」（55.4％）、「実際の社内の雰囲気や労働環境などの情報入手」（29.1％）、「就職活動に対するモチベーションの維持」（24.4％）などが上位にあげられた。

他方で「ウェブセミナーやウェブ面接のための通信環境の準備」（2.8％）や「ウェブ面接等での面接官とのコミュニケーション対応」（7.5％）など、今どきの就活に欠かせないリテラシーに関してはあまり苦労を感じていないようだ。この点はZ世代の特性とも合致する結果である。

就活で苦労したこと（n=213）



（性別）

男性（n=114）	女性（n=96）
57.0	54.2
49.1	62.5
29.8	27.1
19.3	31.3
12.3	17.7
10.5	7.3
7.9	11.5
11.4	5.2
6.1	10.4
8.8	6.3
6.1	6.3
4.4	3.1
2.6	3.1
0.9	0.0
2.6	2.1

（%）

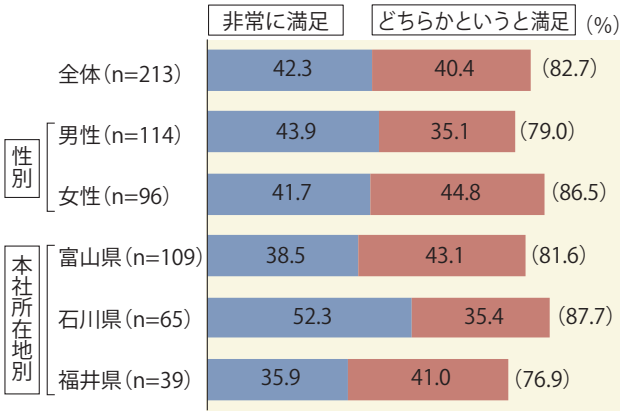
性別では、女性は「自己PRや志望動機等の文章作成」（62.5％）を最大のハードルとしており、男性の49.1％との差が大きい。同じく「就職活動に対するモチベーションの維持」も女性は31.3％と男性19.3％との差が大きく、女性にとってこれら２項目は苦手意識が特に強いようだ。

就活結果への満足度　～８割が「満足」

結果として、今の就職先に決まったことの満足度を尋ねたところ、「非常に満足」が42.3％で、「どちらかというと満足」（40.4％）と合わせると８割を超える回答者が「満足」との結果になった。

この合算値で比較すると、男性（79.0％）より女性（86.5％）の方が満足度が高く、また企業所在地別では石川県が87.7％と、富山県（81.6％）や福井県（76.9％）の企業への就職者より満足度が高い。

就職先に対する満足度



※（　）内は合算値

３．Z世代新入社員の職業観

「働く」ということや、仕事に対する姿勢について尋ねたところ、総じて積極的に取り組もうとする姿勢がみられるが、「人並みに働いて給料をもらえればよい」といった「Z世代」に特徴的な姿勢を示す回答者も相応数みられた。

ワークライフバランスを過剰に意識？

選択肢として挙げたなかから、「仕事も大事だが個人の生活も大事にしたい」とする人が82.2％と圧倒的に多い結果となった。新入社員のうちからワークライフバランスを強く意識する点は、Z世代の特性を大きく反映しているといえよう。

次いで「自分の能力を活かせる仕事をしたい」が47.9％、「自己のスキルアップを第一に仕事をしたい」が31.0％など、仕事に対する前向きな考えが上位に続いている。

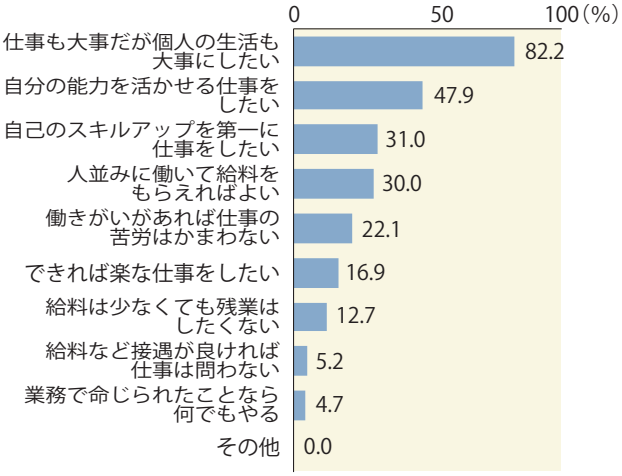
一方で、「人並みに働いて給料をもらえればよい」の30.0％をはじめ、「できれば楽な仕事をしたい」（16.9％）、「給料は少なくても残業はしたくない」（12.7％）など、仕事に対してやや冷めた姿勢を示す新入社員も相応の数が存在するようだ。

図には示していないが男女差もはっきりと現れており、「仕事も大事だが個人の生活も大事にしたい」「自己のスキルアップを第一に仕事をしたい」「働きがいがあれば仕事の苦労はかまわない」などの項目では男性の方が、「給料は少なくても残業はしたくない」「できれば楽な仕事をしたい」「自分の能力を活かせる仕

事をしたい」などの項目では女性の方がそれぞれ多くなっている。

同様に出身県による違いをみると、福井県出身者は「自分の能力を活かせる仕事をしたい」「自己のスキルアップを第一に仕事をしたい」「働きがいがあれば仕事の苦労はかまわない」など仕事への積極姿勢が他県より強く現れている一方で、富山県出身者は「仕事も大事だが個人の生活も大事にしたい」「できれば楽な仕事をしたい」などが、石川県出身者は「人並みに働いて給料をもらえればよい」といった考えが北陸の他県に比べ強いようだ。同じ北陸３県でも、地域によって微妙な差が見られる点は興味深い。

働くことについての考え方（n=213）



さらに、仕事への取り組みスタイルとして対極する９項目を示し「どちらに近いか」を選んでもらった結果をみると、８割超が「プライベート優先志向」であるほか、「スペシャリスト志向」も７割を超えるなど多数派であることが示された。

他方で「チームワーク重視」で、「プライベートも含め何でも相談できる」ような職場にも多くが理解を示しているほか、「実力・成果主義」派と「平等処遇・年功主義」派がほぼ同じ割合を示したり、「転職・独立」や「副業・兼業」に慎重な層も相応に多いことなど、いかにもZ世代らしい特徴を示す結果が得られた。

上司や同僚との人間関係に大きな不安

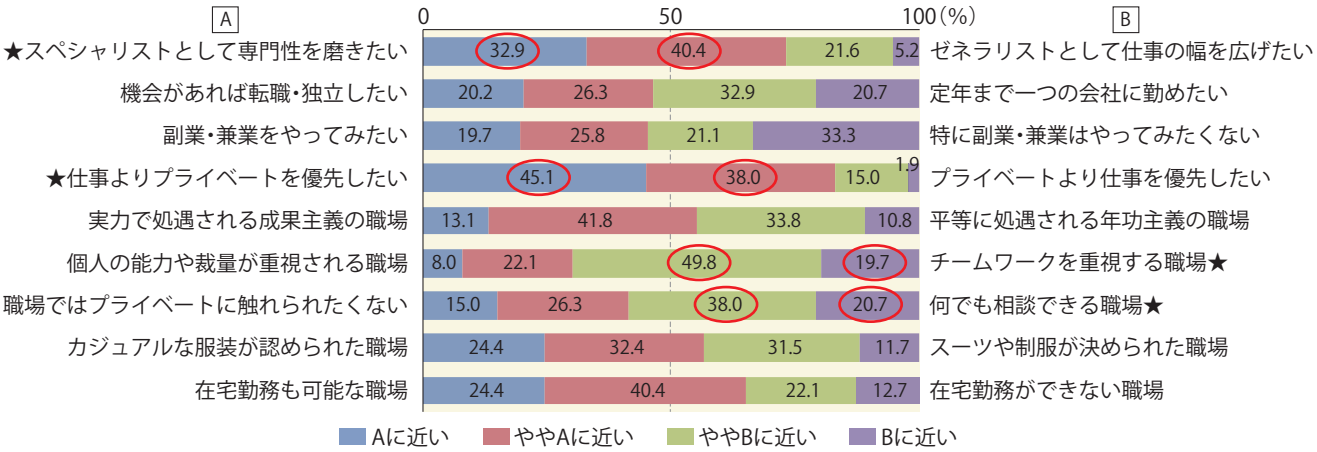
最後に、これから仕事をしていく上で「どんなことが不安か」について尋ねたところ、「仕事での失敗やミス」（38.0％）や「自分の能力やスキル」（24.9％）などを抑えて、「上司や同僚との人間関係」が61.5％と飛び抜けて多い結果となった。

特に今年のZ世代新人はコロナ下での社会人デビューということもあり、オンライン授業のために大学時代に対面で教師等に会う機会が少なく、フォーマルな対人関係性に弱いと言われている。

また一般的に、Z世代は「打たれ弱い」であるとか、暗いニュースが多い時代に育ったことで未来に期待を持てず、「頑張っても報われない」など社会人生活に強い不安を抱いている可能性がある。

採用した企業側としても、こうした世代特性をしっかりと認識したうえで、意欲的に仕事に取り組ませるための対策が必要と思われる。

- ●打たれ弱いので不安をあおらない
- ●上から目線にならない
- ●できている部分をきちんと褒める

等々、この世代に対する職場での接し方について基本的な理解を深めるとともに、デジタルネイティブ世代相手であるからこそ「全てをオンラインで済ませる」のではなく、他の社員と直接会える機会を多く作ったり、対面での研修やOJTを通じて「言葉で親切に伝える」など、早期に独り立ちさせるような工夫が求められるのではないだろうか。

仕事への取り組み姿勢（n=213）